



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

チュニジア：議会選挙運動の開始

10月4日、チュニジアでは10月26日の議会選挙に向けて選挙運動が始まった。暫定立法府の制憲議会の設置（2011年）、新憲法の制定（2014年）を経て、今月末の議会選挙で正式な立法府「人民議会」（Majlis Nuwwab al-Sha‘b）が成立する。議会選挙は比例代表制で行なわれ、政党及び無所属による1327の比例名簿が選管によって承認された。立候補者数は1万5652人に上る。有権者登録数は523万6244人で、うち在外有権者は31万1034人。

〈議会選挙制度の概要〉

- ・ 定数 217
- ・ 比例代表制（国内27区、海外6区）
 - 国内：県単位で1区。ただしチュニス県、ナーブル県、スファックス県は2区に分かれる。
 - 海外：フランス2区、ドイツ1区、イタリア1区、米大陸及び他欧州諸国1区、アラブ諸国及びその他諸国1区
- ・ 拘束名簿式
 - 立候補者数 15,652人
 - 名簿内の候補者順序は男女交互とし、男女候補者割合を平等にする（選挙法第24条）

〈今後の議会選挙日程〉

- ・ 選挙運動 10月4～24日（海外10月2～22日）
- ・ 投票日 10月26日（海外10月24～26日）

評価

これから12月にかけて、チュニジアは選挙の季節に入る。10月26日の議会選挙の後には11月23日に大統領選挙が行なわれ、過半数を獲得した候補者がいない場合は上位2名による決選投票が12月に行われる。よって10月4日から始まった議会選挙運動は、実質的には大統領選挙も見越した選挙運動となるだろう。

チュニジアでは、2011年の制憲議会選挙でナフダ党が勝利してからサラフィー主義勢力の活動が容認され、サラフィー主義やイスラーム主義に反対する世俗派勢力との政治対立が続いていた。イスラーム過激派武装集団が治安当局を狙った襲撃事件もしばしば発生した。2013年初頭と夏には世俗派議員2人が何者かによって暗殺され、チュニジア政界は世俗派とイスラーム主義が互いを非難し合う危機の時期に入っていた。ナフダ党は世俗派の共和国会議党（CPR）とタカトル党（労働と自由の民主フォーラム）と連立を形成していたが、後者の2党から連立離脱の脅しや内閣改造の要求を受け、アリード内閣（2013年3月）、ジュムア内閣（2014年1月）が形成された。

このような不安定な政治・治安状況から、国民の最大関心事項は経済と治安の安定、それによる生活の安定である。ナフダ党への支持も落ちているようである。7月5日にSigma Conseil社が発表した支持率調査では、ナフダ党21.7%に対し、世俗派のチュニジアの呼びかけ党が45.1%であった。その他の政党への支持率が1桁台であることから、議会選挙ではチュニジアの呼びかけ党とナフダ党が大方の票を取り合う可能性が高い。チュニジアの呼びかけ党は、ベン・アリー政権時代に外相を経験したバージー・カーイド・スィブスィー（87歳）が2012年に創設した政党である。

したがって議会選挙では、チュニジアの呼びかけ党とナフダ党がそれぞれどの程度の票を獲得するかが注目点となるだろう。また単独過半数を取る勢力はいないと考えられるため、どのような連立組み合わせになるかも注目される。

（金谷研究員）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799